

## 今後の検討内容(イメージ)

第 1 3 回 四国の港湾における地震・津波対策検討会議

令和 3 年 2 月 1 8 日



# 今後の検討内容(目標) 1/2

令和2年度は、航路啓開の項目別実作業マニュアルとなる「航路啓開の手引き(案)」の新たな項目を作成し、机上訓練では、衛星電話の使用方法や連絡網を再確認するとともに、通信手段の多重化を図るため、Web会議システムの導入を提案するなど、航路啓開活動の実効性向上のための取組みを行った。

今後、「航路啓開の手引き」の追加や、航路啓開の流れ全体を容易に且つ概念的に理解できる要略版の作成を検討したり、これらの資料を用いた関係者への研修の検討、アクションカード導入方法の検討など、多角的に実効性向上のための取組みを続ける。

また、「実効性向上に向けた行動計画」で中期目標とした項目の検討を進めるとともに、太平洋側の港湾を啓開するための長距離回航について検討し、課題の抽出を行う。

## 実効性向上

### 「航路啓開の手引き」の追加

#### ○測量編の作成

「大規模地震・津波等発生時の緊急物資輸送等にかかる瀬戸内海等における航路啓開活動に関する申合せ」の規定により、第五管区海上保安本部、第六管区海上保安本部と交わした「航路啓開活動実施要領」の別添資料である「航路啓開にかかる測量の手引き」の内容を各関係機関が容易に把握するための資料としてまとめる。

#### ○作成済み手引きの見直し（継続）

作成済みの情報収集編、施設点検編、啓開作業編、応急公用負担権限編について、今後の訓練や各会議での意見を踏まえ、継続的に改善する。

## 実効性向上

### 航路啓開についての研修実施を検討

関係者のうち希望者（主に部署異動により詳細な知識を持たない方）を対象に、航路啓開作業全体の流れや、利用できる制度を説明する研修の実施を検討。既存資料に加え、容易に全体を把握できる要略版の作成も検討。

## 事前検討の推進

### 「緊急確保航路等航路啓開計画の実効性向上に向けた行動計画」での中期目標項目を検討

- 例) ・船舶の避難対策検討（避難海域、南トラ関連情報（臨時）発表時対応）
- ・揚収物仮置き場所や処分方法

### 太平洋側の港湾を啓開するための回航について検討

瀬戸内からの回航と想定し、ヒアリングなどにより課題抽出を実施している。

関連して、以前から課題としている作業船の燃料確保について、関係機関や民間団体へのヒアリングにより、平時にしておける準備を整理中。

## ワーキンググループ（12月頃）、机上訓練（1月頃）、検討会議（2月頃）の開催

上記の検討事項に関して、ワーキンググループ及び検討会議を開催し、検討を進める。  
また、アンケート結果を踏まえた航路啓開訓練を実施し、実効性向上を図る。